

埼玉県知事賞

滑川町立滑川中学校 二年 佐藤 葉月

未来をつくる税

私は陸上競技部に所属しています。日々、自分の目標に向かって仲間と切磋琢磨しながら練習を頑張っています。

私たちは土日や長期休みによく陸上競技場に行って練習をします。それは隣町の東松山市にある岩鼻運動公園の東松山陸上競技場です。ここは充実した設備があり、小さな子供から大人の陸上選手まで、たくさんの人が利用しています。

ある日の練習で走りながら思いました。「この競技場はいつどうやってできたのだろう。」「よく利用するこの競技場についてもっと知りたい。」気になって家に帰った後に調べたり、市の方に聞いたりしました。すると一九九九年八月に、五億三千万円で建設されたことが分かりました。他にも色々なことを知りました。競技場を使う人は必ず使用料を払います。例年の年間使用収入は約百二十万なのだそうです。さらに陸上競技場の管理や維持のために年間一億七千万円もかかるということも分かりました。想像以上の額に驚きました。そして使用収入で賄いきれない分の維持費は税金で成り立っているということになります。また競技場内には、税金で動くドクターヘリが出入りすることもできます。市民や利用者の健康や安全のためにも税金が使われています。こうして私たちは多くの人が納めた税金で競技場を使わせて頂いているということです。そう思うと感謝してもしきれないと感じます。新型コロナウイルス感染症が流行する前は年間約二万六千人もの多くの人利用していますが、それでもやはり税金が必要不可欠だということです。

私たちはいつも競技場を出入りするときに「お願いします。」「ありがとうございました。」と言って礼をします。私は今までそれを「競技場を使うことへの感謝」だと思っていました。しかし「競技場への感謝とともに多くの人への感謝」でもあることに気づきました。これからは今までより感謝の気持ちをもって礼をしようと思います。税によって成り立っている競技場でたくさんの人が走っています。社会の大人が税を納める。その税で競技場がある。競技場で実業団などの速い選手が走る。それを見た子供が「自分も速く走りたい。」と陸上競技を頑張る。その子供たちが大人になり、税を納めたり、新たな子供に希望を抱かせる。そのループで未来はつくられていくのだと思います。そして、このループの中心は実は税なのだと思います。

私たちが暮らす社会には税が必要不可欠なのだ改めて感じました。そして、たくさんの人、税、競技場など様々なことへの感謝を忘れずに、陸上競技を頑張っていきたいと思っています。私も大人になったら、しっかり働いて税を納め、未来へつなげていきたいです。